

2023年4月3日

2023年度 新入社員入社式式辞（スピーチ用原稿）

代表取締役 石和田 雄二

< 目次 >

1. はじめに

{芽吹き始めた樹々の葉芽が皆さんの門出を祝福している}

新入社員の皆さん、当社での社会人としての第一歩、おめでとう。

2. ICT が支える日本の未来

{人の能力を倍加させる ICT、日本の将来で一番必要な産業だ}

22年の出生数は85万人、ICT活用で経済成長を持続させるべし。

3. 22年の日本の国際競争力は34位、デジタル競争力29位。

{国際競争力低下は、少子高齢化に加えICT活用の遅れが原因}

ICT活用は開発ではなくビジネスに関するシステム間の連携と効率化

4. コロナ禍を超え、再成長期に入る日本とそれを支える ICT

{歴史に残る新型コロナの3年、新たな成長の時代が今始まる}

コロナ禍の下でも進歩を遂げたICT、AIは今、新時代を迎える。

5. 伝統と先端の ICT の技術連携が新たな価値を創造する

{途切れ途切れのシステム繋ぐクラウドと AI、生産性への切り札}

データ共有クラウドと人に代る AI が DX 化を一段と前に進める。

6. ICT の進歩止らず、メタと量子と 6G がその先の未来を拓く

{巨大データと先進 AI 軸に、次世代技術がその先の時代を拓く}

仮想空間で問題解決、豊かな未来へ技術開発の挑戦に限界なし。

7. 創業 35 年、成長基盤の下、満を持して未来へ挑戦

{社員 770 名平均年齢 33 歳、新旧技術連携で未来への基礎固め}

先進 AI と顧客 SI+SS が当社の強み、ICT 技術者の成長の場も無限

8. 5 年後以降の IVIS の成長を支える主役は皆さん

{4 年後の目標は社員 1 千名売上 100 億、そこからが真の成長期}

次期 3 年計画で成長基盤再整備、それを踏台に当社の成長が始まる

9. 新入社員へのメッセージ： 会社の成長を自分の成長へ

{専門資格に挑戦、体系的知識を武器に現実の場に学び成長せよ}

可能性を信じ、目標をもって不断に地道な努力を積み重ねること。

10. 終りに

{日本の将来を担う若者達、視野広く ICT を通じて社会貢献を！}

会社や個人を超えて日本の未来を拓く IVIS 社員に育って欲しい。

1. はじめに

{芽吹き始めた樹々の葉芽が皆さんの門出を祝福している}

新入社員の皆さん、当社での社会人としての第一歩、おめでとう。

- 入社式は満開の桜の下で行われることが多いが、
今年の開花は平年より 2 週間早く、
近郊の大半の桜の花は散り、既に葉桜になっている。
代わって、芽吹き始めた樹々の若葉が陽光に映えてまぶしい。
ケヤキの樹に気づかれた人もいるかと思うが、
青空を背景に樹木の先で揺れる小枝の若葉は爽やかだ。
常緑のクスノキなども、
衣替えを前に赤茶色の若葉に染まる。
順天堂の坂道では馬酔木の若葉と白い花が春を知らせる。
若葉は明日への生命力、若者達の門出を祝うに相応しい。
- 新卒採用では計画の 120 名を採用することが出来た。
この人材不足の時代に
優秀な若者から当社を選んで貰った。
会社と社員の将来に責任を負う者として気が引締まる思いだ。
皆さんと共に社員が誇れる立派な会社を作って行きたい。

2. ICT が支える日本の未来

{人の能力を倍加させる ICT、日本の将来で一番必要な産業だ}

22 年の出生数は 80 万人、ICT 活用で経済成長を持続させるべし。

- 今年の出生数は前年比 21 万人減の 79 万 9 千人、
日本の少子高齢化が急速に進んでいる。
異次元の少子化対策では問題解決にはならない。
労働人口の減少は、働く若い世代に重くのしかかる。
現状では国も国民も豊かにならず、国力は衰えるばかりだ。
- 労働減の中で経済成長を続けるには人材への投資と技術革新。
経済学によれば、経済成長三要素は労働と設備と全要素生産性
全要素生産性は技術革新、ICT 活用で人の能力を高めるべし。
ICT 活用は、コスト削減と共に質の高度化が可能となる。
しかも、ICT は特定産業に拘わらず、
製造業でも流通輸送やサービス業など、どの産業でも有効だ。
- ICT は日本のこれからの課題解決に有効に働く技術であり、
ICT サービスは、少子高齢化の日本の元気を支え、
豊かで活力のある日本の未来を拓く、
最も重要な産業である。

3. 22年の日本の国際競争力は34位、デジタル競争力29位。

{国際競争力低下は、少子高齢化に加えICT活用の遅れが原因}

ICT活用は開発ではなくビジネスに関するシステム間の連携と効率化

- スイスの著名なビジネススクール IMD が毎年発表している国地域の国際競争力で22年の日本は63カ国地域中34位、1992年まで日本は1位を維持、96年まで5位以内だが、97年以降は後退を強めて昨年は31位、一貫して低下傾向にある。また IMD の22年デジタルランキングは63カ国中29位だ。
- 前者はビジネス環境の指標だが、効率が57位、技術インフラ42位、後者ではデータ分析と技術スキルは63カ国地域中で、最下位の63位と62位、日本のデジタル化の遅れが鮮明だ。
- 経産省は2018年、DX (Digital Transformation) レポートで現状維持でデータ中心の処理基盤であるDXが進まなければ、毎年12兆円の損失を出し、日本は25年に崖に落ちると警告、システム間の連携へクラウドとIoT、AIの一貫処理を提言、官民挙げてDXを進めるべきとして日本再生への条件とした。
- 動き始めたDX化も予期せぬ新型コロナの感染拡大で先送り。一部で継続進展は有っても、大半の企業では暫くサスペンド。

4. コロナ禍を超え、再成長期に入る日本とそれを支える ICT

{歴史に残る新型コロナの3年、新たな成長の時代が今始まる}

コロナ禍の下でも進歩を遂げた ICT、AI は今、新時代を迎える。

- 2023年4月現在、新型コロナ感染第八波も収まりつつあり、出口が見え、5月には第5類に移行、規制は大幅に緩和される。
- コロナ明けで設備投資が活発化、個人消費に勢いが出ており、物価上昇を超えて国内景気は安定して上昇に向かう見通しだ。
- 注目すべきは、ICT 関連はコロナ禍でも進歩を遂げたことだ。DX より非接触指向のネット通販や物流、自動化への投資進展。チ-ムスやクラウド、AI やモビリティ分野で技術革新も進んだ。
- 更に注目すべきは、大規模言語 AI システムの GPT 4 が出て、第三次 AI ブームの限界を乗越え
今まで想像もしなかった次世代 AI に道を拓いたことだ。
多言語対応で人と自然に会話出来る AI、
膨大な文章を要約し、トークンで絵や文章も創り、
卵や小麦粉など、材料の写真を見て料理名を提案してくれる。
言葉を介して概念を理解し行動する AI、想像を超えた衝撃だ。
- 先進 ICT に学びつつ課題解決に取り組む、それが我々の仕事だ。

5. 伝統と先端の ICT の技術連携が新たな価値を創造する

{途切れ途切れのシステム繋ぐクラウドと AI、生産性への切り札}

データ共有のクラウドと IoT、人に代る AI が DX 化を前に進める。

- DX 化を進めるのに、環境変化に対応すべく

対象となる業務システムをスクラッチから作り直す時代は終り、

- ① 機能部品を組立てて短期間にシステムを再構築

- ② 人が介在する非効率的な問題はシステムの的に解消する

これが今風で、前者はローコードやアジャイル技法が、

後者は、クラウドと IoT、AI が解決してくれる。

- 官庁や企業の業務システムは組織に従い縦割りに作られている。

その為、業務システム間をデータ入出力で繋ぐ必要があるが、

クラウドでデータを共有することで自動処理が出来る。

運用では、経験に基づく人の判断や推論も必要だが、

人に代って業務システム間で、AI 機能がその役割を果す。

- 顧客システムのクラウド化や AI 導入には

先進 IT の高度な技術知識と共に、

システム構築や保守改良の IT サービス力が必要となる。

先進と SI 技術が次代の優れた IT サービス企業の条件となる。

6. ICTの進歩止らず、メタと量子と6Gがその先の未来を拓く

{巨大データと先進AI軸に、次世代技術がその先の時代を拓く}

仮想空間で問題を解決、豊かな未来へ技術開発の挑戦に限界なし。

- 今年は日本の量子計算機が本格的に稼働する量子計算元年だ。

先月末、理研は64量子ビットの国産初の計算機を完成、

ネットを通して外部からの使用を可能にした。

通信制御やエラー訂正はハイブリッド方式で「富岳」が担当。

- 計算量がベキ乗で増える最適化問題などが得意だが、

深層学習のAI処理にも適しており、

量子計算機の発展は今後AIの能力と可能性を大きく広げる。

- 近未来技術にCPSがあり、

現実対応のモデルを仮想空間上に作り、

現実世界の変化をIoTと6Gで仮想空間に即時転送、

そこで求めた問題解決の最適解を現実世界に戻すシステムだ。

量子計算機に加えて

未来技術のメタヴァースや6Gなども社会課題解決に必要なだ。

- 社会の豊かな未来を目指してICTの技術開発は限りなく続く。

ICTの仕事は永遠に続く、皆さんの仕事でもある。

7. 創業35年、成長基盤の下、満を持して未来へ挑戦

{社員 770 名平均年齢 33 歳、新旧技術連携で未来への基礎固め}

先進 AI と顧客 SI+SS が当社の強み、ICT 技術者の成長の場も無限

- 当社に話を戻そう。

創業 35 年目だが、平均年齢 33 歳、年々若返る会社だ。

大手も含め同業他社は 40 歳前後、毎年平均年齢は増えて行く。

当社の名前アイヴィスは

Intelligent Vision & Image Systems の頭文字をとってもの、

創業時に一晩で考えた名前だが、35 年を経て時代に合ってきた。

- 国の大型研究案件、

防衛装備庁と経産省の二つの案件と取り組んでいる。

前社は V-SLAM という自動 3D 地図作り、応用は自由視点他、

後者は Reservoir Computing、AI 学習方式、応用は自動走行他。

主な顧客は、NTT データ、トヨタ (TS)、BIPROGY、IHI など、

研究所関係も多く、

国立情報学研、JAXA、海洋研級開発機構、産総研等。

他社との違いは、高度先進技術と顧客 SI+SS の協調的な両立。

8. 5年後のIVISを支える主役は皆さん

{4年後目標は社員1千名売上100億円、そこからが真の成長期}

次期3年計画で成長基盤再整備、それを踏台に当社の成長が始まる。

- 創業35年35期連続黒字、今期の売上2期連続20%増の63億。
- 過去3年はコロナ禍でもあったが、
第4次産業革命と言われた産業界の変革を想定、
人材採用と先端技術シフト、技術導入と専門人材育成を図った。
- 今期は成長基盤整備3ヶ年計画の最終年、
仕上げと次の飛躍への準備年、
大阪支社の拡大安定化と先端・サービス間の協業推進を進める。
- 主要顧客3社、NTTデータ、トヨタ・システムズ、BIPROGY
との連携を深め、経営安定化への人材交流・導入も進めて行く。
- 来期以降も新基盤整備3ヶ年計画として
社長交代を含む経営体制と組織の若返りを進め、
同業他社との連携を強化、社内若手人材の技術力底上げに注力。
- 次期3カ年計画が終わる4年後の27年3月期には、
技術者1千名超、平均年齢33歳、売上100億円利益7億、
新経営体制の下、その先の自律成長への安定成長基盤を固める。

9. 新入社員へのメッセージ： 会社の成長を自分の成長へ

{専門資格に挑戦、体系的知識を武器に現実の場に学び成長せよ}

可能性を信じ、目標をもって不断に地道な努力を積重ねること。

- 当社の将来は、皆さん一人ひとりの人間的成長にかかっている。
- 専門性のある人もない人も、技術職としてまず ICT の基礎力をしっかりと身に着けること、専門分野での活躍はその上での話。

☆ 現実の仕事に真剣に取り組むこと。

- ① 仕様を理解すること。 不明を放置しない。
- ② 解への論理を組み立てる。 曖昧さを放置しない。
- ③ 簡潔な表現に努め全体見える化。 報告を放置しない。

☆ 知識の体系化と能力の客観化の為、情報処理資格を取る。

- ① 1年で応用技術者資格、
- ② 3年でDB、5年でPMの専門技術者資格

☆ 実装の論理を考えつつ、その先の問題解決へ構想力を磨く。

- ① 実装問題の背景にある課題を理解する。
- ② 解決方法を他の人と議論する。
- ③ 納得するまで、PDCAを繰り返す。

- 技術は常に進歩、ICT関連雑誌1冊を必ず読む習慣をつける。

10. 終りに

{日本の将来を担う若者達、視野広く ICT を通じて社会貢献を！}

会社や個人を超えて日本の未来を拓く IVIS 社員に育てて欲しい。

○ 今日から社会人。

視野広く世の中の在り様を冷静に観察する。

歴史と歴史上の人物に学んで、考え行動する力を磨く

社会的関心と共に将来への夢を描き、目標へ向かって努力する。

○ 今日から職業人

仕事を通じて学ぶ基本の軸をずらさず、自分を冷静に見直す。

基本の軸は5年後の自分の姿、具体的な形に落とす。

3年ごとにゴールを設定、節目で振り返る。

○ 最後に、3月の日経「私の履歴書」(唐池恒二 JR 九州相談役)に

載っていた言葉を紹介する。

夢なき者に理想なし。 理想なき者に計画なし。

計画なき者に実行なし。 実行なき者に成功なし。

故に、夢なき者に成功なし。 ——— 吉田 松陰

○ 1年後の皆さんの成長を期待する。

目標をもって、地道な努力を続けてください。 (おわり)